

## 21世紀・社会学の終り（2）

宮台 真司 氏（首都大学東京教授）

日時：平成30年 7月 29日（日）15:00～16:30

場所：多摩キャンパス7号館

（講演教室は、当日、掲示にてご案内いたします）



### <講師紹介>

宮台 真司（ミヤダイ シンジ／MIYADAI Shinji）  
首都大学東京教授。

1982年東京大学大学院社会学研究科入学。1984年、同大学院修士課程修了。1990年、権力関係を数理的（数理社会学）に分析する論文『権力の予期理論』で社会学博士の学位を取得。最先端の社会現象や若者文化を鋭く指摘。現代社会の構造や問題点を独自の視点で読み解き、一躍論壇の主役に躍り出る。代表的著作：「14歳からの社会学」「私たちはどこから来て、どこへ行くのか」等多数。

### <講演概要>

宮台真司氏との付き合いは長く、実はとても深いのだが、皆と一緒に氏のご高説を聴いたことはない。石原都知事の大学改革に揺れに揺れた東京都立大学が心ならずも首都大学東京と名を変えさせられた大激動の時期、1990年代後半からの約十年、その大学の人文学部で、まさしく一番人気高い社会学という分野の全国区超有名人たる氏と英文の僕は月イチ教授会で顔を合わせる同僚だったが、二大スターとか言われていた割には、こんにちとはかいう挨拶を交わした記憶もないのが、いつ思い出してもおかしい。社会学で怪物と言われた小室直樹、見田宗介両氏ゆかりの若手ホープということで、緊張してたのかもしれないが、基本超有名人同士の照れなんだろう。カリスマあるこの社会学者は、教授会でふりあてられた各委員職を実に真面目におっとり完遂してみせた。その落差というか芸風を僕は月イチ、本当に楽しんだ。彼が引っ張ッた社会学が"終わり"なんだって?!聞きたい、聞きたい!!



（大妻女子大学副学長 高山宏先生 記）